

【どんなお話をしていますか】

先日、校長室に2年生の男の子が2人入ってきました。机の横に新聞が置いてあるのを見つけて、「これ今日の新聞?」「そうですよ、君たちは新聞を読むことがあるんですか?」「はい、テレビ観だけ。今日は7時からドラえもんがあるんだよ。」新聞のテレビ観を見ると、そのドラえもんの案内が見当たりません。なんだか2時間の特別番組があるようでドラえもんはお休みのようです。そのときの2人のがっかりした様子はとても印象的でした。夜の7時と言えば、低学年の子どもたちにとっては、夕食が済んで寝るまでの楽しい時間なのでしょう。きっと家族の約束事のようなものがあってその時間はドラえもんを見るのが習慣になっているのだと思います。2人が毎週その時間になると、にこにこ笑顔でテレビを見ている姿を想像し、家庭の温かさを感じました。

さて、夕食に限らず、毎日の食事の準備は大変なことでしょう。子どもたちに何を食べさせようかといろいろと工夫されていることと思います。ある方が、日本のお母さんたちは夕食の献立は考えても、夕食のときにどんなことを話題にするかを考える人は少ないとおっしゃっていたことを思い出しました。もしかしたら献立を考えることより難しいことかもしれません。何も考えていないと、結局「今日は学校でどんなことがあったの?」というお決まりの会話のスタートになってしまうのではないのでしょうか。確かに学校で生活する時間の長さを考えれば、これもまた大切なことかもしれませんが、毎日同じことを聞かれたら子どもは「またか・・・」と思うかもしれません。献立や食材に合わせたお話でもいいですから、せっかく子どもが楽しく、落ち着いて食べる夕食の時間なので、是非有効に使っていただければと思います。

【落書き】

2月に入ってすぐのことでした。3階のトイレに「落書き」がありました。夕方教員が見回りをして気づいたのですが、正直なところ私はこのことに大変なショックを受けました。これまでこの小学校では、いわゆる落書きというのはあまりなく、そのことは私の一つの誇りでもありました。落書きによいものとそうでないものがあるとは思いますが、子どものちょっとしたいたずら心で行われるものはまだかわいいところもあります。しかし、トイレの個室に入って、一人そこで壁に向かって落書きをするという行為は、落書きをする子の気持ちを思うと、とてもかわいそうでなりません。そういう行為をしないと、気持ちがおさまらない何かがあったのでしょうか。しかし、落書きをすることで気持ちの整理ができたのでしょうか。そうではないはずです。

校訓にある「表現」は、相手を思いやりながら自分の気持ちをしっかりと伝えたり、表現したりすることができるようになってほしいという願いが込められています。今回のことで、まだまだ校訓を十分に伝えきれていないことを反省させられました。

【バレーボール大会】

2月14日(土)に、父親参加のバレーボール大会を行いました。この小学校で、保護者が参加するこのような行事は初めてのものでした。お父様方が学校をこれまで以上に好きになってほしい。これからはもっと学校に足を運んでもらいたい。学校に来たときに、他のお父様方と気軽に会話ができるような雰囲気少しでも作っていききたい。そんな願いを持って今回の行事を企画しました。

限られた時間でしたが、参加されたお父様方にはゲームを楽しんでいただけたと思います。また、ゲームのあとで行った「交流会」では、同じチームの方同士、さらには胸につけた名札を見ながら、同学年さらには異学年のお父様同士の交流も見られました。普段、学校のことはお母様方から聞くことが多いと思いますが、今回ばかりはお父様同士の会話を楽しんでいただけたのではないのでしょうか。

「次回はいつごろでしょう」という声も聞こえてきました。お母様方に参加していただける行事も企画しないといけませんね。

【ものを大切に作る】

文房具の中には、子どもばかりでなく、大人にとっても持っていて楽しいものがあります。私も文房具屋さんの店内でいろいろなものを見て回るの好きです。当然、「欲しいな」と思うものに出会う機会は多くなり、いつの間にか引き出しにはそんなときに買ったものが収まっているということになります。

さて、子どもたちに「勉強に使うから」と言われるとつい買い与えてしまう。そんなことはありませんか。気づいたら同じようなものが家にあった、などということもあるのではないのでしょうか。また、親が弱いことばの中に、子どもが言う「みんな持っている」というものはありませんか。私たちもつい使いがちなこの「みんな」ということば、魔法のような響きがあります。しかし、その「みんな」の中身を問うと、意外にも少ない「みんな」であることもあります。

学校では、勉強に必要なものは持ってこないように、という声かけをしていますが、何がそれに該当するかしないかは、教員に聞くまでもなく、子どもたちはちゃんと分かっているでしょう。

本当に必要なものをよく話し合ってから与えていくことで、ものを大切に作る心も育てていきたいものです。